

倭俗訓

上

增  
775  
266

9 10 1 2 3 4 4 5 6 6 7 8 8 9 9 20 1 2 3 4 4 5 6 6 7 8 8 9 9 30 1 2 3 4 4 5

大和俗訓序



古之教者必本於躬行不則受教之人弗能化也其躬行者必推而教人不則體仁之分未能盡也益軒先生學極該博行致敦厚其教人者皆出於躬行之餘而孳々思人之爲善然其秉心恭謙不敢以道學之名自處之也先生著書也夥矣蓋謂志聖學者宜上誦洙泗之懿訓下讀濂洛之遺書而足焉後輩妄添隻言者所謂畫蛇足也故其所著述只勤要爲民俗之益而

不敢好夸高耀人也此先生之志也先生  
嘗憂世俗不能讀聖賢之書者無知日用  
彝倫之道於此作爲喻俗之書乃書以國  
字名以大和俗訓唯欲庸輩之易讀而不  
厭其言之鄙近矣先生愛人之誠意可謂  
厚也定直竊謂學者貴自得苟不自會於  
心則不能發於行歷陳聖賢千言萬語朝  
誦暮讀亦所謂雖多亦何爲與其勞於博  
而不知要孰若得一言而行之於躬哉此  
編也其言雖近其爲教親切著明可以起

懦夫廉頑夫矣卷帙雖不多其爲用廣博  
周詳自爲學之道心術之要以至衣服言  
行應事接人之法無不畢備矣夫言近者  
誦之易感旨遠者用之不盡學者其遜志  
務讀會之於心實之於身則其益亦不尠  
矣孟子曰服堯之服誦堯之言行堯之行  
是堯而已矣苟能讀此編實之於身則所  
謂堯之徒而已豈復憂不至君子之域耶  
然則此編豈獨爲武人俗吏而已哉讀者  
不可以其近而忽之也







乃

寶永五年立冬日

益軒目原篤信書  
時年七十有九

大和俗訓卷之一



為學子上

目原篤信著



天地を万物の父母人と万物乃靈なりと尚書に聖人と云  
流アリ之意を天地万物と云ふ程平にして大父母  
たり人を天地の正氣と云ふも生るる物と云ふ  
まゝ共心なりと云ふ也其意はともて他の心以  
以心と云ふ物此内と云ふ共心なりと云ふ也  
の靈と云ふは此の心なりと云ふ也其意はともて  
あるは云て他を物と云ふは心なりと云ふ也其  
まゝなりと云ふ也其意はともて他を物と云ふは  
心なりと云ふ也其意はともて他を物と云ふは





百姓の目と利のくちをさし欲うんて地の天恵をばあ  
て天地をまむくた天地の子として常存り人の子として  
其親を也とせん他人を也とせん父母を也とせん孝と  
のちをせん孝の子を孝とせん地の肉を也とせん  
や天地の子として地をうむくは孝の徳やまうて  
まうたは孝といふを地をまむくは孝とせん  
天地をまむくは孝といふ事一前にもせんといふ  
も地をせんといふ事一前にもせんといふ事  
孝といふ事一前にもせんといふ事

孝といふ事一前にもせんといふ事  
孝といふ事一前にもせんといふ事  
孝といふ事一前にもせんといふ事  
孝といふ事一前にもせんといふ事  
孝といふ事一前にもせんといふ事

以下一も成以て澄経も仁人の天のつらむ親とつ  
ふふふく一 疎からん親はけふる事一 天のつら  
ふがやく事一 孝徳也一 といふはちそんふの  
はちそんふの教をせんて地をせんて父母  
はちそんふの同はちせんて地をせんて父母  
あれもせんて地をせんて地をせんて父母  
ふのつらむ孝子なり孝徳とせんて地をせんて  
地をせんて父母はちそんふの同はちせんて地  
をせんて父母の事一 孝といふ事一 前にもせん  
て父母のつらむ事一 孝といふ事一 前にもせん  
て地をせんて父母の事一 孝といふ事一 前にもせん  
て父母の事一 孝といふ事一 前にもせん





有るはこれに思ひて、今を生れ、学ひぬれば、  
その同じ、学ひて、及ばず、されど、学ひ、  
知りて、心、初、い、ま、さ、し、と、  
人、生、れ、る、学、に、よ、り、の、及、ば、ず、  
子、一、人、に、し、ま、さ、し、と、  
学、ひ、ぬ、れ、ば、  
学、ひ、ぬ、れ、ば、  
ら、千、ん、の、学、ひ、ぬ、れ、  
有、る、と、  
故、く、  
有、る、と、  
ら、  
也、  
也、

階梯、  
之、  
格、  
之、  
左、  
い、  
と、  
学、  
市、  
と、  
は、



志の如くしるる文藝武藝の誦を在り者の習ふべき  
物に非ざるありて一これに藝の事あり及我の事には  
藝の事には一これに必事の志を有りて好く其ふとの  
いんや私欲の如きこと好く悔ふる事ありて一志は  
其れなきに西國の人の志はゆんゆりの事に見ゆた  
其の事を見れば一これに念を常に有る事あり  
志の如くしるる物に非ざる事ありて一此の如く  
事ありて一此の事を見れば一

元學の如くしるる教の如くしるる禁戒の事ありて一  
其の事を見れば一此の事を見れば一此の事を見れば一  
此の事を見れば一此の事を見れば一此の事を見れば一  
此の事を見れば一此の事を見れば一此の事を見れば一  
此の事を見れば一此の事を見れば一此の事を見れば一

いんや私欲の如きこと好く悔ふる事ありて一志は  
其れなきに西國の人の志はゆんゆりの事に見ゆた  
其の事を見れば一これに念を常に有る事あり  
志の如くしるる物に非ざる事ありて一此の如く  
事ありて一此の事を見れば一  
元學の如くしるる教の如くしるる禁戒の事ありて一  
其の事を見れば一此の事を見れば一此の事を見れば一  
此の事を見れば一此の事を見れば一此の事を見れば一  
此の事を見れば一此の事を見れば一此の事を見れば一  
此の事を見れば一此の事を見れば一此の事を見れば一















つた交合したるを人よりせん命一子園を  
我力と他人力とに一御人高きも人なるを  
亦聖の子孫又女為君子儒正為人儒との語を  
元子の信を以て己身とせめんや子や実子少の儒  
只人よりせんをめたるは己利を成るのより我を  
他人に忘れ一偽字也少とん君子の人を以て  
て是は一少の字を以て悪くならしむ下並れ同  
力と用ひて字同し君子儒とあり一少の儒とあり  
ア一ははれ海人少の信とあり口行一少の君子  
和りこはるすちと立一己字同はるの才一は  
一少の君子とせんし情く書とよこ字同し一  
益字一と和く書者

書とぬて我力と実用するのと志一実用と書とを  
聖の教と我力にも用ひて一ちとる少の用と書とを若  
書とよこ我力とせしめ力と実用とを以て益と信と  
いふも本之不字とせん如思思真如好好也一はとん  
然んどもこれとも用ひて一実と思と一書一思真の如く  
吾と好字好ものこととす一論語とて父母ははる  
よく其力とつて一君ははるを徳と力とせしめはとて  
を其とく思ふは一我力のかも欺のかも一私と志者  
とつて一はとて一交方とるものせはる私と志者  
らるる志とはくはた一自解はくのものも一是と書は  
んで実用とるものと書と多くとんで一実用とるは耳  
の字といひて一耳とてははるはとて一はと心り

















これ聖人の教と云てたゞくいさひの事といふ事の  
そが今亦古来歴代のみを云々今日のみならず  
れいふとほと然く教を去と云いふと云んふ下いふ  
牛乳けら才ありとも絶古なくありあはるる古今天  
下此愛と志ありいふあまもいして小書と云るるあふい  
学問いさく我々のあやまりをいふあまようつて力を  
去へと云て去て書と云はく古今天下の事通すもあ  
我々の過と行つて先正者と行つたはく律と事れり此等  
多り志と云ふはく去と云て去て書と云はく此等二義あり  
孝周の道と云ふと云はく所當と云くたぢふと云はくして  
氏と云ふやまふ若くは位高くと云はく此等と云はく  
と云ふ古天字にして天子に向ひて云ふと云はく此等と云はく

世道人の云ふ昔處中の昔人と云ふ今文は君臣父子等  
夫婦朋友の間の事なり亦友方の方の事なり皆一室の事  
即ち暫時世をこゝれと云ふ一凡まといふ世に於ける此の  
それらの聖賢がこゝれといふ思ふ事と云ふ思ふこと  
命なり生れたる良賢の事なり世の事なりと云ふ用ひ  
の事なり一日も世に事なり若くはそむく礼達と云ふ事  
かかき免罪法なりいひく事なりと云ふはれも凡まを  
答ふと云ふ能く事なり故に其の能く事なり出づる教  
と云ふは凡と云ふことと云ふ事なり天下の事なり  
精進業事の乃凡と云ふと云ふ聖賢の書不明と云ふはれ  
きと云ふ日月の事なり若くは其の事なり凡日月の事  
と云ふは凡と云ふ事なり其書と云ふは其の事なり其















かゝるれ悪人の境界とまぬれた故にその子の殊立と名懸  
の園と云々悪人の所へ之園を内平の界と  
悪人倫の私也昔輩此にけきくいふ事うて連とらわら  
者もろゝあつた志とたゆむ女に初り家よ志とて悪人  
を死傷くうとて其志とてそのいさくまて一巻く千里の志  
牛もろとてその志とてけしむにたれたてめ半半の  
日用のちとていさくまてあつた志とてけしむにたれた  
了とてあつた志とてけしむにたれた志とてけしむにたれ  
えよとてあつた志とてけしむにたれた志とてけしむにたれ  
登ふとてあつた志とてけしむにたれた志とてけしむにたれ  
わうとてあつた志とてけしむにたれた志とてけしむにたれ  
はとてあつた志とてけしむにたれた志とてけしむにたれ

虚妄の況を用い辨をいさくまて

ゆゑにいさくまてあつた志とてけしむにたれた志とてけしむにたれ  
てあつた志とてけしむにたれた志とてけしむにたれ  
あつた志とてけしむにたれた志とてけしむにたれ  
らとてあつた志とてけしむにたれた志とてけしむにたれ  
聖の書と讀及とてあつた志とてけしむにたれた志とてけしむにたれ  
常とてあつた志とてけしむにたれた志とてけしむにたれ  
あつた志とてけしむにたれた志とてけしむにたれ  
うとてあつた志とてけしむにたれた志とてけしむにたれ  
聖の道とてあつた志とてけしむにたれた志とてけしむにたれ  
同とてあつた志とてけしむにたれた志とてけしむにたれ  
ありとてあつた志とてけしむにたれた志とてけしむにたれ







大和俗訓卷之二

